

農林漁業のうごき

京都府 No.199 令和8年

京都府は「府民会議」を通じて、
府内産木材の利用促進に
取り組んでいます。



未来につなぐ
京の木府民会議



未来につなぐ京の木府民会議」の理念を広く発信し、関心を高める
シンボルとなるロゴマーク(左図)を決定!(関連記事P9.)

デジタル版は
コチラ



内容

- 特集1 令和8年度 農林水産関係当初予算の概要 2~5
- 特集2 令和7年度に京都府内で発生した高病原性鳥インフルエンザについて 6
- 特集3 「持続可能な京都の海の活用に関するプラン」を策定しました 7
- 特集4 「第5次京都府食育推進計画」を策定しました 8
- 特集5 未来につなぐ京の木府民会議のロゴマークが全国公募により決定しました 9
- 特集6 第9回「京のプレミアム米コンテスト」を開催しました 9

トピックス

農林水学びの横断研修を初開催～京都府農林水産業人材確保・育成センターの取組～ /
 八幡市で宇治茶の文化的景観地域フォーラムを開催! /
 第3回京のこだわり畜産物レシピコンテストを開催! /
 きょうと食の安心・安全フォーラム～京の食 つくり手の想いにふれて～を開催! /
 Gulfod2026で京野菜などの京都の食材・食品をPRしました /
 令和5年8月台風第7号による山地災害復旧工事が完了しました /
 漁業に親しもう!～親子で一緒に学ぶ「京の海の幸」と漁師の仕事～ /
 農村RMO事例報告会を開催/京のブランド産品「京はたけ菜」が初出荷されました 10~12

シリーズ

第23回 農林水産技術センターの研究紹介 森林技術センター / 丹後特産部 13

地域の取組

農業と福祉がお互いを理解しつなげる未来へ～京都乙訓地域農福連携研修会を開催～ /
 宇治茶の魅力をもっと“見て、聞いて、感じて”「宇治茶ムリエ」マスター講座(全3回)を開催 /
 狩猟・有害鳥獣対策の担い手育成に向けたセミナーを開催 /
 中丹で就農しませんか?～就農相談会・農業の魅力体験研修会を開催～ /
 第3回丹後WOOD FESTIVALを開催! 14~15

シリーズ

府内各地の“いちおしの食”を味わおう!「食の京都 TABLE」
 ～第4回 八幡市立やわた流れ橋交流プラザ～ 16

特集
1

令和8年度 農林水産関係当初予算の概要

京都府では、府政運営の羅針盤となる京都府総合計画に基づき、「安心」「温もり」「ゆめ実現」の3つの視点から「あたたかい京都づくり」を実感していただくための予算を編成し、予算規模(当初予算と一体的に編成する令和7年度2月補正予算を含む。)は、一般会計で前年度当初予算比0.2%減の約1兆581億円を計上しました。

農林水産分野においては、「京都府農林水産ビジョン」(令和5年3月改定)の5つの「重点戦略」に関する事業など、希望と活力に満ちた農林水産業と農山漁村を実現するための取組を計画的かつ総合的に推進する予算として一般会計で約235億円を計上しました。

戦略1 フードテックと基盤強化で農林水産業の夢と安心を創造する

<①先端技術の活用による農林水産業の成長産業化>

■京都フードテック推進事業 ……【一部新規 6億8,277万円】

京都の食産業の高付加価値化と競争力強化を図るため、研究機関の整備推進とシーズとニーズのマッチング強化により、京都ならではのフードテック(※)を創出する。

- ・新農林水産技術センター(綾部市)の整備手法等の検討
- ・京都プレミアム中食オープンイノベーションラボの整備工事
- ・産学公連携による研究開発

※フードテック：社会課題の解決に資する食分野の最先端技術の総称

■京都みどりの食料システム戦略推進事業 ……【継続 5億8,375万円】

京都府みどりの食料システム基本計画に基づき、農林漁業・食品産業の持続的発展と食料の安定供給の確保に向け、環境負荷低減事業活動を推進する。

- ・環境負荷低減活動に必要な機械導入を優先的に採択
- ・エネルギー地産地消の実現に向けたバイオマスプラント等の調査、設計、施設整備を支援

<②京都の特長を生かした生産力の強化>

■京都農業経営強化事業 ……【継続 1億542万円】

ブランド京野菜など収益性の高い園芸産地を育成するため、園芸用パイプハウスや生産・出荷調整用機器の整備等を支援する。

■水産物コールドチェーン整備事業 ……【新規 1億円】

漁業者の経営強化を図るため、高水温の影響により漁獲物の鮮度保持に苦しむ漁業者等に対して、低温環境を保つための設備導入等を支援する。

<③安心・安全をもたらす基盤づくり>

■気候変動適応対策事業 ……【新規 2億592万円】

気候変動に適応しながら農林水産業者の収益向上を図るため、新技術の実証・品種育成等の実施、農業水利施設における用水対策を支援する。

■農林水産業基盤整備事業 ……【継続 74億1,345万円】

農林水産業のイノベーション実現のため、農地や用排水施設、漁港、林道等の生産基盤整備を推進するとともに、安心・安全な地域社会の実現のため、ため池改修、漁港海岸や治山施設の整備等、農村漁村や森林の防災・減災対策を実施する。

■きょうと「食の安心・安全」確保事業 ……【継続 265万円】

食品表示制度に係る事業者向け講習会の開催、食品表示巡回調査や食に関する情報提供等の実施により、食の安心・安全を確保する。

戦略2 森林を適正に管理し、林業の発展と豊かな森を実現する

<①木材サプライチェーンの再構築と林業経営の安定化>

■次世代林業を担う林業事業者総合支援事業（経営力向上対策） ……【継続 2億9,607万円】

経営改善に向けた取組の支援や運営経費の貸付等により、持続可能な林業経営の確立を推進する。

■豊かな森を育てる府民税事業（森林資源の循環利用） ……【継続 2億4,400万円】

府内産木材の利用を促進するため、住宅や商業施設等の木材利用拡大に向けた取組や府内産木材の需給体制の構築に向けた取組を支援する。

■森林環境譲与税事業 ……【一部新規 1億2,520万円】

手入れ不足の森林整備を進めるため、森林経営管理制度に取り組む市町村を支援するとともに、文化資源を守る森林の整備や森林の整備を担う人材の育成・確保等を実施する。

・花粉症対策苗木による主伐・再造林を含む森林経営計画を作成した事業者を支援

<②山地災害の防止・低減のための対策強化>

■豊かな森を育てる府民税事業（森林防災対策） ……【一部新規 4億7,690万円】

府民生活の安心・安全を確保するため、災害に強い森づくり、府民提案による公共性の高い施設や道路周辺の危険木対策、再造林の促進支援等を実施する。

■森林災害防止事業（一部再掲）（一部豊かな森を育てる府民税活用） ……【一部新規 21億1,437万円】

危険木伐採、間伐等による森林整備や治山施設の設置等を実施し、森林が有する災害防止機能を高度に発揮させることにより、防災・減災対策を強化する。

戦略3 オープンイノベーションでブランド価値を進化させる

<①京ものブランド戦略の新展開による付加価値の向上>

■京都フードテック推進事業（再掲） ……【一部新規 6億8,277万円】

国内外における府内産農林水産物・加工品（京もの）の新たなブランド価値を創造・付加し、他産地との優位性を確保するため、京都食ビジネスプラットフォームを運営、京都フードテックエキスポ2026を開催するとともに、京もの食品を活用した商品開発を支援する。

■「京の米」ブランド力向上対策事業 ……【継続 6,915万円】

京都府オリジナルブランド米「京式部」や「京の米」の新たな市場・販路拡大を展開するため、ブランド化を戦略的に進めるとともに、高品質化と知名度向上を推進する。

■宇治茶ブランド世界発信事業 ……【継続 2,687万円】

宇治茶の新たな市場・販路拡大を図るため、高品質で市場評価が高い「宇治種」への改植を推進するとともに、宇治茶のプレミアムブランド化や商標対策、茶業振興、世界文化遺産登録に向けた取組を展開する。

- **未来へ羽ばたく京都の漁業を育てる事業(京都産水産物生産・流通拡大事業) …… 【継続 700万円】**
府内産水産物の生産・販路を拡大するため、トリガイ養殖施設等の生産設備の整備や海の京都DMOとの連携による地産地消の取組等を支援する。

<②京都ブランドを支える流通の基盤づくり>

- **きょうと食いく先生活動拡大・強化事業 …… 【継続 856万円】**
学校・保育所・地域等での体験型食育を強化し、地域や府民の食育を推進するため、「きょうと食いく先生」の派遣や地域の食育活動の支援、若い世代を対象とした食育出前講座等を実施する。
- **「食の京都」推進事業 …… 【継続 900万円】**
「食の京都」をキーワードに、地域のいちおし食材を活用した地域の魅力向上や、消費地での認知度向上を図り、「食」を目的とした周遊観光を促進する。

戦略 4 人づくりの裾野を広げ、産業・地域を支える多様な人材を育む

<①意欲ある経営者の育成・支援体制の確立>

- **農林水産業人材確保育成戦略事業 …… 【一部新規 4,178万円】**
農林水産業の成長産業化を牽引する高度な専門人材を確保するため、農林水産業人材確保・育成センターを司令塔とし、分野横断で誘導から定着・経営発展までを一貫して支援する。
・実践的な研修を行う民間事業体の取組支援
・雇用型経営や経営規模の拡大による経営発展を目指す方を対象に高度経営力習得のための講座を開催
- **京都農人材育成強化事業 …… 【継続 4億7,985万円】**
相談から就農までをワンストップで一貫してサポートするとともに、京の農業応援隊(農業改良普及センターなど)による技術研修等の伴走支援に加え、発展段階に応じた経営研修を一体的に実施する。
- **京都畜産未来の担い手づくり事業 …… 【継続 231万円】**
畜産の担い手を確保し、後継者の育成を推進するため、畜産法人等への就業者や新規就農希望者に対する研修等を実施する。

- **未来へ羽ばたく京都の漁業を育てる事業(一部再掲) …… 【継続 1,582万円】**
持続可能な漁業のため、府内産水産物の生産・流通拡大、次世代の担い手育成により漁業・漁村を活性化する。
- **次世代林業を担う林業事業体総合支援事業(一部再掲) …… 【継続 3億7,427万円】**
生産性向上と府内の素材生産量の増加により、林業の成長産業化と適切な森林管理を両立させるため、府内の林業を担う林業事業体の経営をソフト・ハードの両面から総合的に支援する。

<②農林水産業・農山漁村を支える人材の裾野拡大>

- **農林水産業人材確保育成戦略事業(再掲) …… 【一部新規 4,178万円】**
農林水産業の成長産業化を牽引する高度な専門人材を確保するため、農林水産業人材確保・育成センターを司令塔とし、分野横断で誘導から定着・経営発展までを一貫して支援する。
・高校生等を対象に職業としての農林水産業の魅力を発信
・学生等を対象に農林水産業分野横断型インターンシップを開催
- **畜産新規参入促進事業 …… 【新規 2,000万円】**
畜産業への新規就農者の確保を図るため、家畜飼養のための施設等整備への支援を実施するとともに、畜産センターの和牛受精卵の移植体制及び京地どり素びなの供給体制を強化する。

戦略5 人と資源の活用で、持続可能な農山漁村コミュニティを創る

<①持続的で活力に満ちた地域づくり>

- 京のむらづくり推進事業 …………… 【継続 8,555万円】
 中山間地域における地域運営体制の構築を伴走支援し、地域共同活動の合理化と、その余力で新たな事業の創出を図ることにより、持続可能な地域づくりを推進する。
- 有害鳥獣総合対策事業 …………… 【一部新規 11億948万円】
 ツキノワグマによる被害を防止するための総合的な対策を実施するとともに、ニホンジカの捕獲強化等により農作物被害対策を推進する。
 - ・南部地域のツキノワグマ生息状況を調査
 - ・昼夜を問わず緊急銃猟に対応できるハンターの育成
 - ・侵入感知装置等を活用した効率的な加害獣捕獲方法の確立
- 日本型直接支払事業 …………… 【継続 14億8,485万円】
 国の日本型直接支払制度等を活用し、地域の共同活動や中山間地域における農業生産活動等を支援し、農業・農村の多面的機能の維持・発揮を推進する。
- 「移住するなら京都」推進事業 …………… 【継続 1億5,820万円】
 「京都府移住の促進及び移住者等の活躍の推進に関する条例」に基づき、移住から定住に至るまでの各段階に応じた支援により、農山漁村地域の活性化を推進する。

<②地域の独自性や多様性を生かしたビジネスの展開>

- 海業振興支援事業 …………… 【新規 3,500万円】
 漁村における雇用機会の確保と地域の所得向上を図るため、基礎調査や収益性・効果分析の実証等海業の立ち上げに必要な経費を支援する。

令和7年度一般会計補正予算の専決処分について

令和7年12月24日、亀岡市内の養鶏農場において高病原性鳥インフルエンザが発生したことを受け、同日、高病原性鳥インフルエンザ緊急対策のため、令和7年度一般会計補正予算を専決処分しました。(補正予算額8億400万円)

- 防疫対策 …………… 【7億3,600万円】
 発生養鶏場の家きん処分や消毒、検査等の実施
 (事業内容) 防疫対策関係経費:防疫措置、車両消毒、清浄性確認検査等
 モニタリング調査:監視体制強化のための定期的ウイルス検査
- 生産者対策 …………… 【4,800万円】
 府内の養鶏農家等に対する支援
 (事業内容) 府内の養鶏農家等に対する防鳥ネットや消毒薬等の購入助成
- 関連広報 …………… 【2,000万円】
 鶏肉・鶏卵の安全性の普及啓発

特集
2

令和7年度に京都府内で発生した高病原性鳥インフルエンザについて

令和7年12月24日(水)に亀岡市の養鶏農場において、京都府内では21年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザが発生しました。関係機関・民間事業者・他県等からの応援職員の皆様と府職員の延べ約6,700人が24時間体制で防疫作業等に従事し、12月30日(火)に防疫措置を完了しました。

その後、令和8年1月28日(水)に監視強化区域(発生農場から10km内)が解除され、発生農場の周辺における対応は全て終了しました。

5月上旬頃までは鳥インフルエンザの流行シーズンが続きますので、引き続き、最大限の警戒を行い、他の農場での発生防止に取り組んでいきます。

経過等

月 日	対 応 等
令和7年12月23日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 飼養者から南丹家畜保健衛生所へ死亡羽数増加の通報 簡易検査の結果陽性を確認
12月24日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 農林水産省が高病原性鳥インフルエンザ疑似患畜と決定し、防疫措置を開始(AM 9:00) 環境省が野鳥監視重点区域(半径10km内)を指定
12月30日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 防疫措置完了(PM 8:00)
令和8年1月10日(土) (防疫措置完了の翌日から10日後)	<ul style="list-style-type: none"> 清浄性確認検査¹⁾及び搬出制限区域解除検査²⁾で陰性を確認 搬出制限区域の解除(AM 9:00)
1月21日(水) (防疫措置完了の翌日から21日後)	<ul style="list-style-type: none"> 移動制限区域の解除(AM 9:00)
1月28日(水) (防疫措置完了の翌日から28日後)	<ul style="list-style-type: none"> 野鳥を含めた続発事例がないことを確認し、環境省が野鳥監視重点区域を解除(AM 0:00) 監視強化区域解除検査³⁾で陰性を確認し、監視強化区域を解除(AM 9:00)

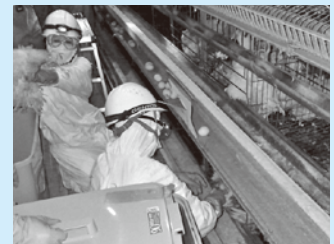
1) 移動制限区域内(半径3km内)の農場(該当なし)の臨床検査 2) 搬出制限区域内(半径3~10km内)の農場(2農場)の臨床検査
3) 監視強化区域内(半径10km内)の農場(2農場)の臨床検査

発生に備えた体制と発生防止対策の強化

今回の迅速な防疫措置の背景には、日頃から発生に備えた体制整備などを行っていたことが大きな要因の一つであったと考えています。

京都府では、関係機関と連携し、発生農場での作業を想定した防疫措置訓練や車両消毒訓練、机上演習などを定期的を実施しています。令和7年度は、これらの訓練を各地域で計39回実施しており、今回の円滑な初動対応につながりました。

今後は、4,000名を超える全庁からの動員者の管理や、防疫措置に必要な資機材の調達方法など、新たに浮かび上がった課題をとりまとめ、対応マニュアルの改訂など、より迅速かつ適切な防疫措置の実施に向けた体制整備を進めるとともに、他の農場での発生を防止するため、農場における防鳥ネットの追加や消毒機器の整備などの更なるウイルス侵入防止対策の強化に資する取組を支援します。



農場での防疫措置訓練

店頭の鶏肉・鶏卵は
安全です

鳥インフルエンザに感染した鶏の肉や卵が流通することはありませんので、安心して美味しくお召し上がりください。

特集
3

「持続可能な京都の海の活用に関するプラン」を策定しました

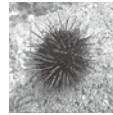
近年、海洋環境が大きく変化しており、漁獲量の減少や、夏の高水温の影響による養殖貝の大量死など、さまざまな問題が起きています。

こうした状況の中で、長い間受け継がれてきた水産業を未来につなぎ、海の恵みを大切に活かしていくために目指す姿をまとめた「持続可能な京都の海の活用に関するプラン」を令和8年3月に策定しました。

プランのポイント — 今後5年間で重点的に取り組むこと —

海洋環境の変化に対応した資源保護と海洋環境保全

- スマート技術を活用して、水温の上昇などの環境変化に対応した水産資源管理や養殖業の安定した生産につなげていきます。
- 国が設定する漁獲可能量(TAC)内で、漁業者が安定して収入を確保できるよう、魚がよく餌を食べて脂がのり、品質価値が高まる時期に、集中的に漁を行います。
- 海の環境を大切に守るため、魚の産卵場所やCO₂吸収源などの役割を持つ藻場を造成するとともに、持続可能な水産物であるブルーシーフードの消費拡大などの取組を強化します。



ウニに食べられて
衰退した藻場の再生を図る

生産性向上・高付加価値化による水産業の成長産業化

- 海洋データやスマート技術を活かした生産性向上の研究が進むよう、産官学の研究機関が集積した「海洋データプラットフォーム(仮称)」の立ち上げなど、研究拠点である京都府海洋センターの機能を強化します。
- 安全で高品質な水産物を届けるため、府内の8割の水産物が集まる舞鶴漁港において、鳥獣の侵入防止対策の徹底など、高度衛生管理型市場への改修に取り組みます。
- 販売力強化と収益向上に向け、府内の産地が持つ豊かな自然や、伝統的な漁法などを活かしたブランド力の強化をはじめとする付加価値の向上を進めていきます。
- 「京都府農林水産業人材確保・育成ネットワーク」に参画する民間企業や大学などと連携し、経営力や技術力を備えた専門性の高い水産業の人材確保・育成のための取組を進めていきます。



海洋センターの機能強化



舞鶴漁港の整備

地域資源を活用した産業の創出による漁村の活性化

- 府内産水産物を使った漁港めしや、漁港、漁村の持つ魅力を伝える漁業体験など、地域資源を活用した「海業」の取組を進めます。
- 漁業や魚食など豊かな漁村文化の継承を図るため、漁業に限らず、観光や飲食など漁村のコミュニティを支える多様な人材の確保に取り組みます。
- 海洋データの活用による再生可能エネルギーの開発や環境に配慮した養殖など新たな関連産業の創出を目指します。



海業の取組例
(漁港めし)

海業の取組例
(漁業体験)



特集
4

「第5次京都府食育推進計画」を策定しました

京都府では、食育基本法に基づき、新たに「第5次京都府食育推進計画」を策定しました。本計画では、府民の皆さんが食を大切にする心を持ち、生涯にわたり健やかで豊かな食生活を世代を超えて実践できることを目指します。

基本的な方針

- 生活の自立が始まる若い世代に対し、科学的根拠に基づく食生活の重要性を伝え、心身の健康を実感できる取組を実施するとともに、家庭・学校・職場・地域など、あらゆる場において、ライフステージに応じた食育を推進
- 広く府民に対し、農林水産業の体験や生産者との交流の機会を提供するなど、農林水産業の理解促進や次代を担う人材の確保につながる取組を推進

施策の展開

多様な主体による食育の推進

< 家庭における食育の推進 >

- 望ましい食習慣を実践し、食に関する知識・感謝・文化が自然に受け継がれ、世代を超えて食の大切さをつなぐ取組の推進
- 京都府産農林水産物や郷土料理などを買う・食べることで地元の食への関心と理解の促進

< 学校・保育所・幼稚園などにおける食育の推進 >

- きょうと食いく先生など食育を担う人材の育成や職員研修、地域・学校での体験学習など、生産者・学校関係者・保護者が連携して、成長・発達段階に応じた食育の取組を推進
- 「食材の理解」「食文化の体験」「命への感謝」「栄養バランスの学習」などを学ぶことができる給食を通じた食育の推進

< 生活自立期を中心とした大人の食育の強化 >

- 「きょうと食育ネットワーク」に参画する大学や企業を増やし、情報交換や協力の仕組みを拡充するとともに、「きょうと食の安心・安全ヤングサポーター」を更に養成するなど、若い世代への食育を進める体制を強化
- 大学や企業の食堂など若い世代の生活の場において朝食摂取やバランスの良い食生活の重要性を科学的根拠に基づいた情報として伝えるなど、食生活の改善を促す取組を推進

< 地域における食育の推進 >

- 地域の伝統的な料理や、季節の行事などを活用しながら、府民が地元の食文化に親しみを持てるような食育活動の推進
- 外食や中食で健康に配慮した商品・メニュー・情報を提供する施設の府民への周知や、調理困難者向け配食サービスのリスト化など、地域で暮らす方々が健康に暮らすための取組を推進

持続可能な農林水産業・食品産業を支える食育の強化

- “生産現場と食卓のつながり”への理解醸成を図るとともに、農林水産業を将来の仕事として選択してもらえるよう、産業を支える人々の想いや魅力に触れられる体験を提供
- 地域で受け継がれてきた食文化の継承や食品ロスの削減などの取組を通じて、食と農を大切にする心を育み、持続可能な食の実践を促進
- SNSやYouTubeチャンネルなどのICTを活用し、食に関する正しい知識や魅力を広く伝える情報発信の強化

特集
5

未来につなぐ京の木府民会議のロゴマークが全国公募により決定しました

「未来につなぐ京の木府民会議(以下、府民会議)」では、京都府と府民などが共に府内産木材の利用促進と木の文化の継承を目的に活動しています。

1月19日(月)に開催した3回目となる府民会議全体会では、株式会社VUILDの井上氏・山川氏による公開ラジオ形式の講演会や交流会など、様々な業種が交わる貴重な機会となりました。

今大会の特徴的な取組として、府民会議の理念を広く発信し、関心を高めるシンボルとなるロゴマーク(右図)のお披露目と表彰式を行いました。

本ロゴマークは、府民会議に集まる人々の姿を、「京」の字を模した幹に色とりどりの葉や生き物が集まる様子で表現したコンセプトや、京都らしい落ち着いた色使いなどが評価され、全国215点の応募の中から厳正なる審査を経て選ばれました。

今後、イベント等への積極的なロゴマークの活用により、府民会議の認知度向上と府民の皆様への木材利用に係る気運醸成を図ってまいります。

京都府は「府民会議」を通じて、府内産木材の利用促進に取り組んでいます。



府民会議全体会講演会

未来につなぐ
京の木府民会議
HPはコチラ



公開ラジオ
の聴取は
コチラ



林業振興課 木材利用促進係 TEL : 075-414-5009

特集
6

第9回「京のプレミアム米コンテスト」を開催しました

京都府全エリアを対象に、生産者の米づくりに対する意欲を育み、おいしいお米の生産技術の向上を図るとともに、京都府産米のおいしさを広くPRすることを目的に第9回「京のプレミアム米コンテスト」を開催しました。

今年度から出品対象品種に京都府オリジナル品種「京式部」を加え、135名の生産者が応募した156点から、特に優れた8点を「京のプレミアム米」として選定し、各賞を決定しました。

常態化する夏場の猛暑や渇水などにより、令和7年の米生産は厳しい気象条件となりましたが、生産者の皆様が高い技術力を活かして、丹精をこめて米づくりに励まれた結果、高品質なお米が多く出品されました。

引き続き生産者や関係機関と連携し、京都府産米の生産技術の向上を図るとともに、知名度を高める取組を推進していきます。

最高金賞	北川 五男	宇治市	ヒノヒカリ
金賞 (3点)	小谷 安博	与謝野町	京式部
	仲上 泰夫	京都市	ヒノヒカリ
	株式会社京都丹波カントリー 村上 真吾	南丹市	ヒノヒカリ
入賞 (4点)	今西 聡	亀岡市	キヌヒカリ
	数井 登志夫	亀岡市	ヒノヒカリ
	清水 俊秀	綾部市	コシヒカリ
	中丹米振興協議会 中嶋 茂樹	綾部市	コシヒカリ

※敬称略、同賞の場合は出品番号順



第9回京のプレミアム米コンテスト
最終審査及び授賞式

農産課 京の米・豆・保険係 TEL : 075-414-5989

トピックス

農林水学びの横断研修を初開催 ～京都府農林水産業人材確保・育成センターの取組～

経営力・コミュニケーション力の向上と分野横断の人脈形成に向け、府研修教育機関(農業大学校・林業大学校・宇治茶実践型学舎・畜産人材研修制度)の学生や研修生など29名を一同に集めた横断研修を初めて開催しました。

研修では、異なる分野の研修を受ける学生らが交流し、一次産業の魅力を語り合うグループワークや、経営の専門家によるマーケティングや経営ノウハウに係る講義を実施しました。参加した学生からは「経営する上での心構えや大事なことを教えてもらった。就業後に生かしていきたい」などの声が聞かれ、普段の学びを深める機会になりました。

引き続き、「京都府農林水産業人材確保育成戦略」に基づき、将来の農林水産業を担う人材の確保・育成のための、研修・教育内容の充実に取り組んでいきます。



研修を受けた学生・研修生の皆様

経営支援・担い手育成課 新規就業・人材育成係 TEL：075-414-4912

八幡市で宇治茶の文化的景観地域フォーラムを開催!



地域フォーラム開催風景

京都府では「宇治茶の文化的景観」の世界文化遺産登録に向けた取組を進めており、その一環として、景観保護の取組に対する地元の機運醸成のため、宇治茶の生産活動で形成された地域の景観が持つ価値や魅力について地元住民や関係者と意見交換し、地域としての認識を共有する地域フォーラムを開催しています。

今年度は令和8年2月1日(日)に八幡市で開催し、阿部大輔教授(龍谷大学政策学部)による「宇治茶の歴史における八幡市茶業の重要性について」の講演やパネルディスカッションなどが行われ、96名の来場者がありました。来場者からは、「茶農家だけではなく地域一体となった取組が必要であることが分かった」などの声が聞かれ、八幡市の茶業の将来を考える1日となりました。

農産課 宇治茶・特産振興係 TEL：075-414-4945

第3回京のこだわり畜産物レシピコンテストを開催!

京都府では、衛生管理を徹底し、地元産飼料の利用や快適な飼養環境の整備など、こだわりの飼養方法により健康な家畜を育て、安心して安全な畜産物を生産する農場を「京のこだわり畜産物生産農場」として登録して応援しています。

「京のこだわり畜産物生産農場」のこだわりと生産物のおいしさを知ってもらうために、「京のこだわり畜産物レシピコンテスト」を開催しました。

全国13点の応募の中から、府民の皆様からの投票や外部委員による審査を経て、5点の入賞作品が決定しました。

最優秀賞を獲得した「みんなハッピー!京丹波ぼーくのこだわりルーローハン」は、京丹波町の農場で肉質・肉味にこだわって生産された豚肉の魅力を活かすため、試行を重ねてレシピを生み出した熱意が評価されました。

今後も、府内畜産物の魅力発信に向けた取組を続けていきます。



みんなハッピー!
京丹波ぼーくのこだわりルーローハン

畜産課 畜産振興係 TEL：075-414-4981

トピックス

きょうと食の安心・安全フォーラム～京の食 づくり手の想いにふれて～を開催!

消費者・生産者間の相互理解・信頼づくりを推進するため、食品関連事業者の食の安心・安全に関する取組を紹介するとともに、消費者との意見交換や交流を行う機会として、令和8年2月13日(金)に、「きょうと食の安心・安全フォーラム」を開催しました。

当日は、111名の方にご参加いただき、参加者からは「食の安心・安全にこれだけ力を入れているのを知って、心強く思いました」、「生産者の方の実際の声を聞くことができ、貴重な体験ができた」などの声がありました。

今後も、このような交流の機会を通して、「食の信頼づくり」を推進します。

〈参加事業者（発表者）〉

- ・株式会社鼓月（総務部 広報 鳥飼 優介 氏）
- ・有限会社三和鶏園（久下 広子 氏）
- ・奥村農林園（奥村 幹夫 氏）



活発な意見交換が行われました

農政課 食の安全・食育係 TEL：075-414-5654

Gulfood2026で京野菜などの京都の食材・食品をPRしました



京都府ブース来場者に商品説明する出展者の様子

京都府や輸出に取り組む関係団体などで構成する京都府農林水産物・加工品輸出促進協議会が「Gulfood2026ジャパンパビリオン」(令和8年1月26日(月)～30日(金)/ドバイ)に出展しました。アラブ首長国連邦をはじめとする世界各地から有力な食品バイヤーが集う場で、京都の歴史とともに育まれた食材・食品の素晴らしさを伝えました。

九条ねぎやいちご、茶に加え、現地ニーズの高いグルテンフリー食品などの加工品をPRし、来場者からは「食材の品質の良さに驚いた」、「食品の豊富さに京都の魅力を感じた」などの声がありました。

本パビリオンをきっかけとして、京都府産食材・食品の中東地域での販路開拓に向けて引き続き取り組んでいきます。

流通・ブランド戦略課 京もの販路開拓係 TEL：075-414-4941

令和5年8月台風第7号による山地災害復旧工事が完了しました



福知山市大江町河守(令和8年3月完成)



綾部市篠田町(令和7年3月完成)

令和5年8月に発生した台風第7号豪雨災害においては、京都府中丹地区を中心に、山地の渓流において、土石流が発生し、立木が土砂とともに下流の宅地や道路等に流入するなど、甚大な被害が発生しました。

京都府では、被災渓流を調査した結果、さらなる土砂流出などの二次被害が発生するおそれがあることから、国の災害関連緊急治山事業の採択を受け、治山ダムなどの治山施設の整備を緊急的に実施し、令和8年3月までに復旧工事が完了しました。

近年、局地的な集中豪雨により、山地災害は毎年のように発生しています。今後も、府民の生命、安全な暮らし、大切な財産を守るために、治山ダム等の防災施設整備や本数調整伐等の森林整備により、森林の持つ防災機能や水源涵養機能の維持・増進に取り組んでいきます。

森の保全推進課 森林土木係 TEL：075-414-5028

トピックス

漁業に親しもう!～親子で一緒に学ぶ「京の海の幸」と漁師の仕事～

京都府と京都府漁業協同組合は、将来の漁業を支える担い手の育成に向けて、親子で漁業の魅力を学ぶ体験イベントを各地で開催し、今年度は88名の参加がありました。

体験イベント内容

- ・海から食卓に届くまでの過程を学ぶ養殖イワガキの出荷体験(舞鶴市)
- ・漁業に携わる人々の努力を知る定置網漁体験(宮津・京丹後市)
- ・寿司のプロに教わりながら京都の水産物を楽しく味わう、寿司づくり体験(京都タワー)
- ・伊根町の漁師さんを講師に、漁師の仕事と海の幸を使った食文化を学ぶ家庭料理教室(あじわい館)

引き続き体験イベントなどを開催し、漁師という職業への理解を深めるとともに、京都の豊かな海の幸を使った食文化を次世代へと繋いでいきます。



定置網
漁業体験
(宮津市
養老地区)



寿司づくり体験
(京都市 協力:大起水産株式会社)

水産課 漁業漁村係 TEL : 075-414-4994

農村RMO事例報告会を開催

農村RMOの取組事例の共有と、関係者(参加集落の住人、地元地域づくり関係者、行政職員など)の連携強化を目的に「京都府農村RMO事例報告会」を令和7年12月8日(月)に開催しました。

報告会では、ラジコン草刈り機を活用した省力的な農地活用体制の構築(中六人部地区)や、放置竹林を利用した有機肥料で作った米のブランド化(摩気地区)などの報告や、神戸大学大学院高田准教授による地域と支援者それぞれの取組姿勢に関する講演、意見交換会が実施され、各地域が農村RMOの形成をはじめとする地域づくりの取組に役立つアイデアを見つける場となりました。

当日は55名が参加し、参加者からは「事例報告の地区へ視察に行くことにした」との声もあり、各地域の未来の姿を考える有意義な機会となりました。

※農村RMO:複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織



各地域の強み・課題について
意見交換の様子

農村振興課 地域連携支援係 TEL : 075-414-4907

京のブランド産品「京はたけ菜」が初出荷されました

京の伝統野菜「畑菜」が、令和7年3月に9年ぶりの新たな京のブランド産品「京はたけ菜」として認証されました。

京都府では、JAグループなどの関係機関と連携し、新規生産者の掘り起こし、京はたけ菜生産出荷部会の結成、作型や規格の検討、目合わせ会の開催、農家巡回による生産状況の確認などに取り組み、令和8年1月に初のブランド出荷を迎えました。

引き続き、関係機関と連携し、生産拡大に努めるとともに、近畿圏や首都圏の量販店での販売促進や、飲食店でのコラボメニュー開発による「京はたけ菜」のPRや販路拡大に取り組んでいきます。



出荷された「京はたけ菜」

※「京マーク」は登録商標です

※京のブランド産品:安心・安全と環境に配慮した「京都こだわり農法」で生産され、優れた品質のものだけが京のブランド産品として、おいしさや信頼の目印「京マーク」を表示して出荷されます。(全31品目)



流通・ブランド戦略課 ブランド戦略係 TEL : 075-414-4941

シリーズ 農林水産技術センターの研究紹介

第23回

令和7年度に取り組んでいる研究をご紹介します

農林センター 森林技術センター、丹後特産部

研究1 成長が速く花粉が少ない次世代樹を育成しています

府内のスギやヒノキなどの人工林の約8割が利用期にあることから、「伐採・利用・再造林・保育」という森林資源の循環利用サイクルを早期に確立し、森林資源を持続的に活用する仕組みを形成することが求められています。併せて、国民の約4割が花粉症であると推計されていることから、再造林を行う際は、成長が早く花粉が少ない森林への転換を進める必要があります。

そのため、林業現場において、少花粉種や、花粉量が少ないことに加え、成長速度も速い特定母樹の導入を促進する必要があることから、森林技術センターでは、平成29年から少花粉スギの採種園を造成し、令和2年に種子生産を開始するとともに、少花粉ヒノキや特定母樹スギ・ヒノキの採種園の造成を進めており、これらの苗木は令和10年度から配付できる見込みです。

今後とも、採種園の適切な管理により苗木の安定供給に努め、成長が早く花粉の少ない森林への転換を進めてまいります。



少花粉スギの採種園



特定母樹ヒノキの採種園



特定母樹スギの採種園(造成中)

農林水産技術センター 農林センター 森林技術センター TEL : 0771-84-0365

研究2 干しいもに適した特徴ある京都産カンショを選定しています

京丹後市では、干しいも加工工場の稼働に伴い、原料であるカンショの生産拡大が進められています。

丹後農業研究所では、「特徴のある京都産カンショを生産したい」という農家からの要望を受け、干しいもに適し、かつ主流品種「べにはるか」と差別化できる品種の選定試験を行っています。これまでに4品種・6系統を栽培し、収量、食味、干しいも加工後の外観などを「べにはるか」と比較して、3品種・3系統まで絞り込みました。

今後は、加工業者の意見を踏まえ、京都産干しいもとして消費者にアピールできる特徴を備えた1品種・1系統を選定していきます。



様々な品種を蒸しいもや干しいもに加工し、食味を調査

農林水産技術センター 農林センター 丹後特産部 TEL : 0772-65-2401

地域の取組

京都乙訓

農業と福祉がお互いを理解しつながら未来へ ～京都乙訓地域農福連携研修会を開催～

令和7年12月11日(木)に京都乙訓地域の農業者、福祉事業所を対象とした、農福連携の推進に向けた研修会を開催し、関係機関を含め約50名が参加しました。

農福連携の意義や仕組み、メリットを実感していただくことで、今後の取組開始に向けた機運醸成を目的に、第1部では農福連携に取り組んでいる農業者・福祉事業所・京都府等からの講演、第2部では小松菜の袋詰め作業の実演会・何でも相談コーナー・マッチングの各ブースを設置し、情報交換や交流を行いました。

参加者からは、「農福連携を通じて障害者の意欲増加や社会参加が出来ることの素晴らしさを感じた」などの声がありました。

今後も農福連携に係る研修会の実施や、農業者と福祉事業者間のマッチングなど、農福連携の輪を広める取組を進めてまいります。



マッチングブースでの活発な交流の様子

京都乙訓農業改良普及センター TEL：075-315-2906

山城

宇治茶の魅力をもっと“見て、聞いて、感じて” 「宇治茶ムリエ」マスター講座(全3回)を開催

京都府では、「お茶する生活」の普及に向けて、宇治茶の歴史や生産について学べる講座を開催しています。さらに、宇治茶への理解をより深めていただき、熱心な宇治茶ファンとなっていただくための発展的な講座として、「宇治茶ムリエ」マスター講座を令和7年度に3回開催しました。

第1回(R7.11.26)は、お茶の合組体験を通じ、お茶の香りや味を奥深く感じていただき、第2回(R8.1.21)は、木津川市上粕の茶問屋街と和束町の山なり茶園を訪ね、宇治茶の歴史や生産現場に係る見聞を広げていただきました。第3回(R8.2.20)は、茶業研究所での茶の品評会審査体験・機能性講座を通して、お茶について専門的に掘り下げて学んでいただきました。

3回の講座を通して京都府内外から47名の参加があり、参加者からは「お茶の奥深さを学べたことで、お茶と接していく楽しみが増えた」などの声がありました。

引き続き、宇治茶の魅力を府内外へ広く伝えられるよう様々な取組を進めていきます。



第1回(R7.11.26)
お茶の合組体験の様子



第2回(R8.1.21)
木津川市の茶問屋街見学の様子



第3回(R8.2.20)
茶の品評会審査体験の様子

山城広域振興局 農林商工部 農商工連携・推進課 TEL：0774-21-2392

南丹

狩猟・有害鳥獣対策の担い手育成に向けたセミナーを開催

南丹広域振興局では、狩猟に興味を持つ方や有害鳥獣対策に関心のある方を支援するため、南丹市や一般社団法人京都府猟友会と連携し、令和8年2月22日(日)に南丹市でセミナーを開催しました。

当日は約150名の参加者が集まり、狩猟を安全に始めるためのポイントや、鳥獣被害を防ぐ工夫、ジビエ利用、クマ対策など、幅広い内容を学びました。参加者からは「鳥獣被害が増える中、地域に少しでも貢献したい」などの声もあり、熱意が感じられる場となりました。

今後も、こうしたセミナーの開催や地域と連携した取組を進め、狩猟や有害鳥獣対策を担う人材の育成に力を入れていきます。



わなの設置方法の実演

南丹広域振興局 農林商工部 農商工連携・推進課 TEL: 0771-22-0426

中丹

中丹で就農しませんか？
～就農相談会・農業の魅力体験研修会を開催～

中丹地域における農業の担い手の確保に向けて、中丹東、西農業改良普及センターでは就農相談会や社会人向けの農作業体験に取り組んでいます。

令和7年12月14日(日)に綾部市内にて「就農相談会in中丹」を開催し、就農希望者(17名)と中丹地域の農業経営体(13者)が参加しました。栽培したい農作物や労働条件を話し合うことにより、就農希望者の疑問や不安が解消されたとともに、法人への農業バイトが2件成立しました。

また、農作業体験として、令和7年は「農業の魅力体験研修会」を全4回開催し、製茶工場見学、茶の秋整枝作業体験、茶香服体験、紫ずきんの収穫調製体験を実施しました。参加者からは「生産者の生の声が就農への参考になった」「まずは農業バイトから始めたい」などの声があり、農業への関心が高まる取組となりました。

引き続き、農業の魅力を発信し、担い手の確保に向けた取組を進めてまいります。



「就農相談会 in 中丹」の様子

「農業の魅力体験研修会
(茶香服体験)」の様子

中丹広域振興局 農林商工部 中丹東農業改良普及センター TEL: 0773-42-2255
中丹西農業改良普及センター TEL: 0773-22-4901

丹後

第3回丹後WOOD FESTIVALを開催!

地域産木材の利用促進と地産地消による地域活性化を図るため、令和7年10月26日(日)に阿蘇シーサイドパーク(与謝野町岩滝)にて、「第3回丹後WOOD FESTIVAL」を開催しました。

当日は、飲食・物販・体験ブースに25店舗が出店し、約1,000人の家族連れの皆様に御来場いただきました。体験ブースでは、「小さな木の家」の組立ワークショップなどが行われ、子どもたちが木に触れながら楽しむ様子が見られました。また、木工品の販売や地元の食材を使った飲食ブースも盛況で、地域の魅力を広く発信できました。

今後も地域産木材の魅力を発信し、利用促進に向けた取組を進めてまいります。

「小さな木の家」組立
ワークショップの様子

丹後広域振興局 農林商工部 森づくり振興課 TEL: 0772-62-4306

シリーズ 府内各地の“いちおしの食”を味わおう！
「食の京都TABLE」を紹介します ～第4回～

八幡市立やわた流れ橋交流プラザ
(八幡市)

～食の京都TABLEとは～
食の魅力を生かした観光誘客の拠点として、農林水産物直売所や道の駅など府内25施設を選定・PRしています



時代劇の撮影にも使われる、木津川にかかる名所「流れ橋(上津屋橋)」にほど近い「八幡市立やわた流れ橋交流プラザ」。美しい四季、地域の食や文化など、八幡の魅力を発信する交流施設です。

石清水八幡宮や背割堤の桜並木など、八幡の観光スポットを巡るサイクリングの休憩所にもおすすめです。



施設内の農産物直売所はJA京都やましろが運営しており、地元八幡産の旬の野菜や果実に加え、パンやお弁当などの加工品も販売しています。商品には生産農家さんの名前が記載され、安心・安全の証となっています。

ビュッフェレストラン「八幡家」では、地元農家の野菜を使っており、体に優しく美味しいおばんざいがメインのお店です。お昼はビュッフェ形式、夜は会席料理を楽しむことができます。

また、挽きたてのそば粉を使った本格的なそば打ち体験や、添加物を使用しないパン作り体験の講座も実施しています。最新情報は施設HPを御確認ください。



「食の京都TABLE」府HP



やわた流れ橋交流プラザ 検索

「やわた流れ橋交流プラザ」HP

流通・ブランド戦略課 ブランド戦略係 TEL: 075-414-4941

はじめまして！
都まぐろです
「都まぐろ」とは？
京都府内で捕獲される8kg以上で選別された小型くろまぐろのこと。ま身部分には旨味がしっかりトロ部分はやさっぱりした脂でいくらでも食べられる！
京都の冬の新たな名物をぜひ召し上げ！

京都府産天然小型クロマグロ
愛称「都まぐろ」に決定！

皆様に数多くのご応募をいただいた京都府産天然小型クロマグロの愛称は「都まぐろ」に決定しました！応募総数436件から西脇知事が選んだ名前です。多くの素敵な名前のご応募ありがとうございました！



西脇知事が愛称を決定！

水産課公式SNSにて
京都の海と川の魅力発信中！



「都まぐろ」の
イベント情報も発信します！

水産課 漁政企画係 TEL: 075-414-4997

読者の声を募集中！アンケートに御協力ください！

より良い広報誌にしていいため、皆様からご意見やご感想を募集しております。いただいた声は、今後の誌面作りの参考にさせていただきます。

回答は
こちらから



募集期間

3月25日(水)～5月31日(日)

発行/令和8年3月
編集/〒602-8570
京都市上京区下立売通新町西入数ノ内町 京都府農林水産部農政課
TEL: 075-414-4898 E-mail: nosei@pref.kyoto.lg.jp

京都府人権啓発イメージソング「世界がひとつの家族のように」は、「お互い支え合うことの大切さ」をイメージした歌です。歌い広め、「いま、わたしたちにできること」を考えてみませんか。



公式HPから視聴ができます▶